



# 環境の現状と 課題

- 1 松山市の環境
- 2 環境施策の評価
- 3 市民アンケートの概要

# 1

## 松山市の環境

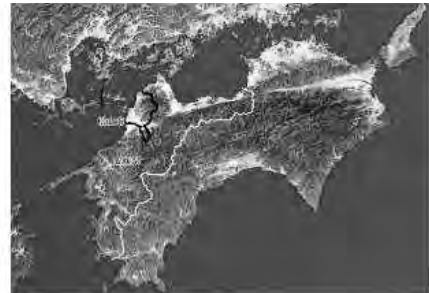
### 1 松山市の環境

## (1) 概況

### ①位置・地勢

本市は、四国の北西、愛媛県のほぼ中央にある松山平野に位置し、市役所の位置は東経132度46分、北緯33度50分にあります。市域は、東西40.3km、南北42.9km、総面積は429.05km<sup>2</sup>です。

本市の地形は、市街地の東北部に高縄山系、東部に石鎚山系が連なり、この両山系の間に、石手川、重信川などによって形成された扇状地、三角州の沖積平野が広がります。



### ②沿革

松山の名は、慶長7年（1602年）加藤嘉明が築城した松山城にちなみ名付けられたといわれています。明治6年愛媛県庁が設置され、県都となり、明治22年12月15日市制を施行以来、政治・経済の中心都市として成長してきました。また、俳人正岡子規をはじめ、多くの文人を輩出するなど地方文化の拠点としての役割を果たしてきました。

昭和20年、市街地の大部分を戦災により焼失しましたが、今日では総合的な都市機能を備え、平成12年4月には中核市へと移行し、平成17年1月には、北条市・中島町と合併し四国初の50万都市となりました。

### ③人口

#### ア. 人口・世帯数

平成22年10月1日現在（国勢調査）の本市の人口・世帯数は、517,231人、224,178世帯です。平成2年比で、人口が7.6%増加しているのに対して、世帯数は29.1%増加しており、核家族化が進行している様子がうかがえます。

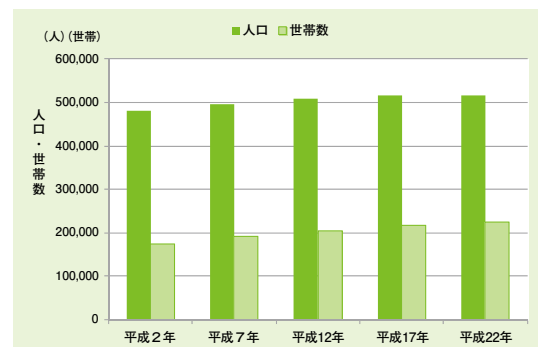


図1 人口・世帯数の推移 資料：国勢調査

### イ. 年齢別人口

年齢別人口比率は、全国的な傾向と同様、本市においても高齢者比率が増加傾向にあります。

平成22年の高齢者比率は、22.0%ですが、全国の23.1%、愛媛県の26.6%と比較すると低い比率となっています。市内には、国立1、私立3の4つの大学があり、これらの大学の存在も比較的若年層の多い人口構成の一因と考えられます。

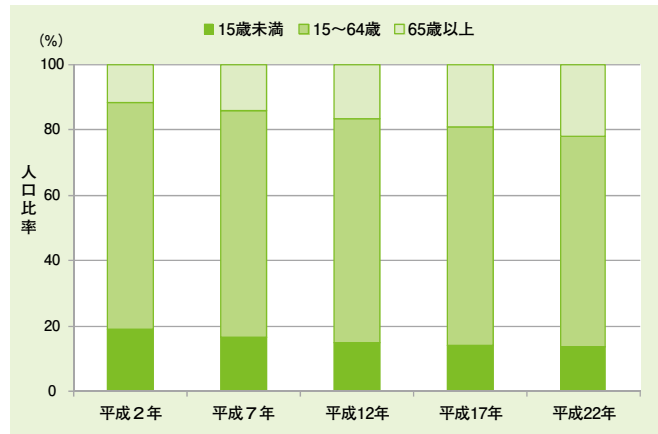


図2 年齢3階級人口の推移 資料：国勢調査

## ④気象

本市の気候は、温暖な瀬戸内気候です。平成23年度の年間平均気温は16.5℃、年間降水量は1,633mmであり、6月に多く、12月に少ない夏雨型です。年間日照時間は約1,956時間であり、全国的にも日照時間が長い地域である瀬戸内海地域の特徴を表しています。

台風の通過も太平洋側の高知県や徳島県に比べれば少なく、穏やかな気候条件ですが、全体に降水量は少なめで、積雪もごく少量のため、水不足の傾向があります。

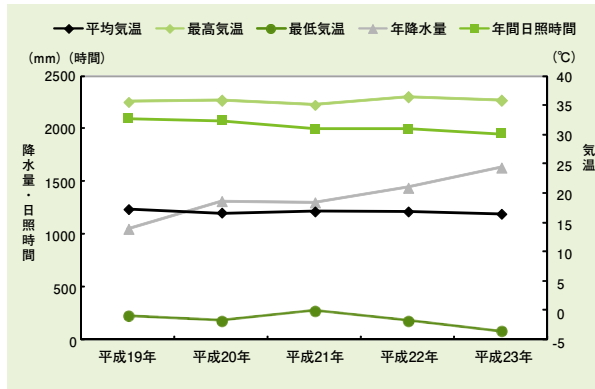


図3 松山の気象 資料：松山市統計書

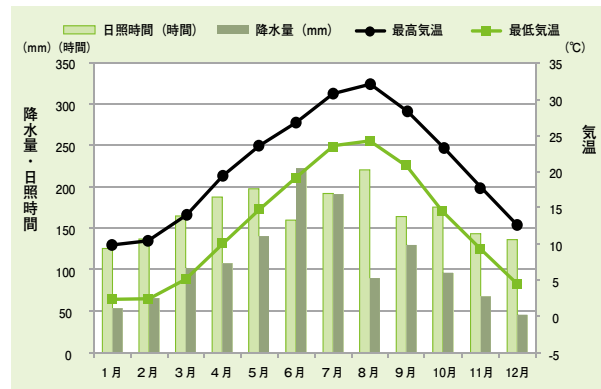


図4 松山の気象 (昭和56年～平成22年 平均値) 資料：気象庁 (気象データ)

## ⑤ 産 業

### ア. 産業構造

産業別就業人口比率は、第1次産業で減少、第3次産業で増加の傾向がみられます。

全国及び愛媛県と比較すると、第1次産業及び第2次産業就業者数の構成比は小さく、第3次産業就業者数の構成比が高くなっています。なかでも、卸売・小売業、宿泊業・飲食サービス業、金融・保険業の構成比が高い値となっています。

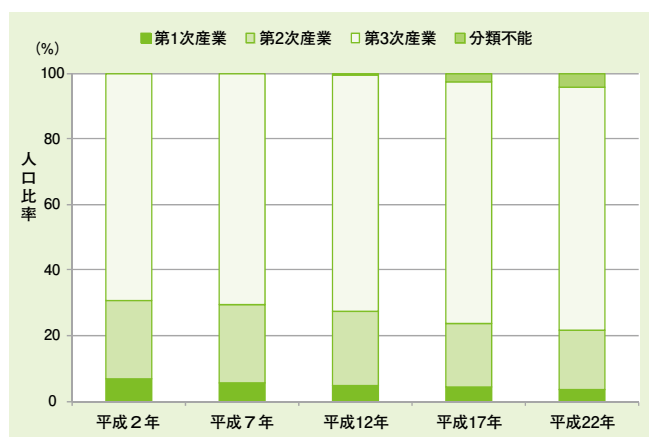


図5 産業別就業人口比率の推移 資料：国勢調査

### イ. 農 業

農家数の推移は、販売農家数が減少傾向にあります。また、経営耕地面積も減少傾向にあり、特に田及び樹園地は減少傾向が顕著となっています。この要因として、都市化に伴う、住宅用地、商業用地への転用などの影響が考えられます。

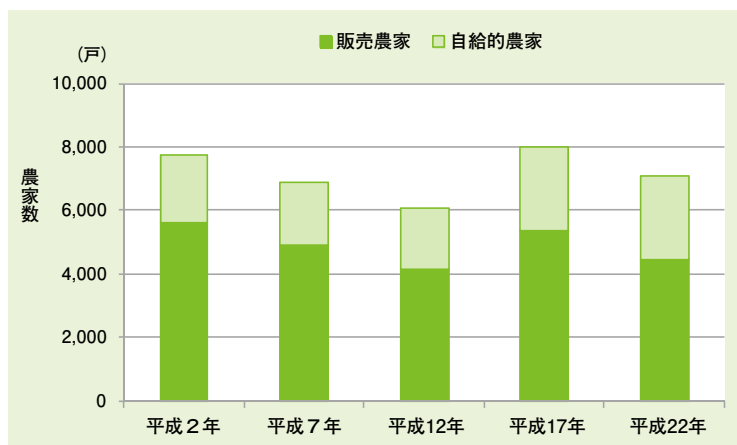


図6 農家の推移 資料：松山市統計書

販売農家：経営耕地面積が30a以上又は  
農作物販売金額が50万円以上の農家  
自給的農家：経営耕地面積が30a未満又は  
農作物販売金額が50万円未満の農家

※合併前の旧北条市及び旧中島町のデータは含まれていません。

## ウ. 製造業

製造品出荷額等及び従業者数は、ともに平成20年後半の世界的な景気変動の影響から平成21年に減少していますが、その後は回復傾向が見られます。事業所数は、平成22年にかけても減少している状況です。

本市の製造業は、化学工業製品、食料品、はん用機械器具、生産用機械器具製造業などが比較的大きなウェイトを占めています。

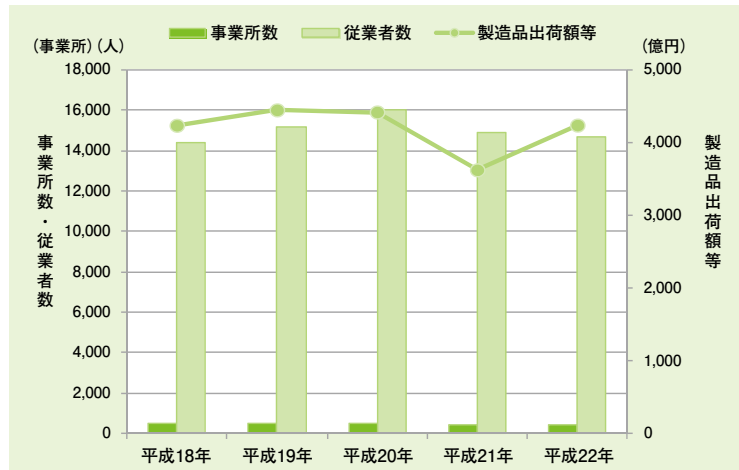


図7 製造業の推移 資料：工業統計調査

※平成19年調査から調査項目が変更されたため、「製造品出荷額等」については平成18年以前の数値と接続していません。

## エ. 商業

商業の推移は、平成9年以降、年間商品販売額の減少傾向が続いています。

卸売の平成19年の販売額は、平成9年比61.1%、小売は、同85.4%と、卸売が大きく減少している状況です。

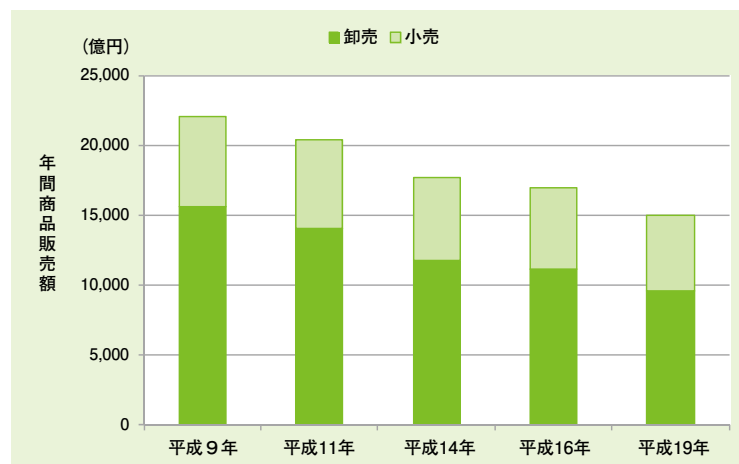


図8 年間商品販売額の推移 資料：商業統計調査

## ⑥交通

### ア. 鉄道・軌道

市内の鉄道は、JR予讃線（高松～宇和島間）及び伊予鉄道高浜線、横河原線、郡中線が整備されており、市街地には、伊予鉄道の軌道が整備されています。

JR松山駅の年間利用者数は、図9に示すとおり減少傾向にあります。

伊予鉄道（図10）の利用者数は、1,000千人の幅で変動しています。路線別では、市内線で減少が見られるものの、郊外線の高浜線、郡中線は、ほぼ横ばいです。

なお、乗合旅客自動車（バス）の乗客数は、図11に示すとおり平成20年に増加がみられるものの、以降減少傾向にあります。

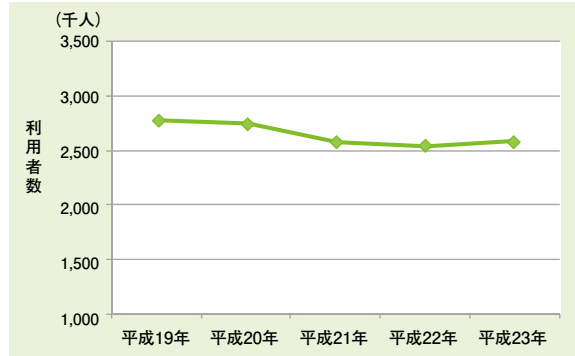


図9 JR松山駅の利用者数 資料：松山市統計書

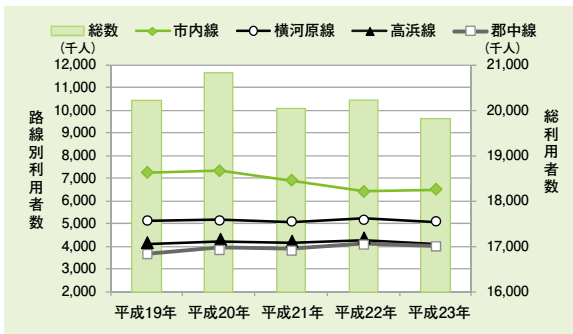


図10 伊予鉄道の利用者数 資料：松山市統計書

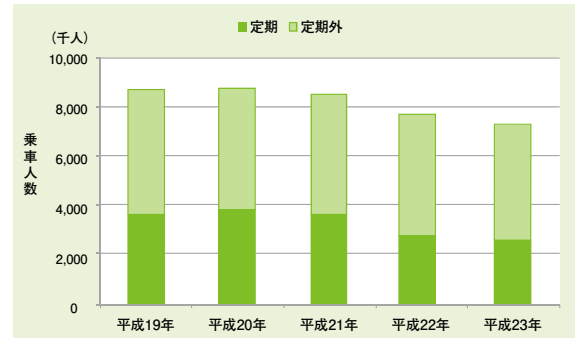


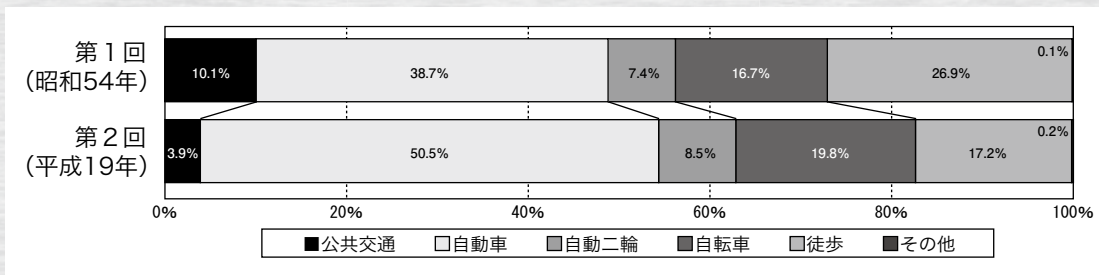
図11 バス乗車人数の推移 資料：松山市統計書



## 交通分担率

交通分担率とは、移動をする際の交通手段割合であり、人々が、どのような交通手段を利用しているか調査し、交通実態を把握しています。

松山市では、昭和54年と平成19年に調査を実施していますが、この30年間で、移動手段は大きく変わり、マイカー利用が大幅に増加しています。



## イ. 自動車

本市域の道路網は、香川・徳島方面へ国道11号、高知方面へ33号、愛媛県南予方面へ56号、今治方面に続く196号・317号、三津浜港につながる437号の6路線の国道及び主要地方道、一般県道が整備されています。

平成22年度道路交通センサスの12時間交通量データによると、国道での最多交通量は、国道11号・福音寺町の39,835台となっています。一方、主要地方道の最多交通量は、松山空港線の19,057台、一般県道の最多交通量は松山川内線の15,794台でいずれも国道の半数以下で、自動車交通量は国道に集中する傾向があることがうかがえます。

市内主要道路の交通量の経年変化は、交通センサス昼間12時間交通量のデータでは、平成11年以降、全体的に減少傾向にあります。

国道では、11号、56号が若干の減少傾向にあります。33号は、平成17年の調査で増加していましたが、平成22年調査では、地点間の差はあるものの、平成17年と同程度の交通量となっています。196号では、福角町、常竹で増加しています。317号は高野町で増加、溝辺町では減少傾向がみられます。

主要地方道は、松山東部環状線、松山北条線で増加傾向を示しています。松山伊予線、伊予松山港線、松山港内宮線は横ばいから若干増加で推移しており、松山空港線、松山港線では減少傾向がみられます。

一般県道は、湯山北条線、辰巳伊予和気停車場線、久米垣生線、砥部伊予松山線及び粟井浅海線で増加傾向を示しています。

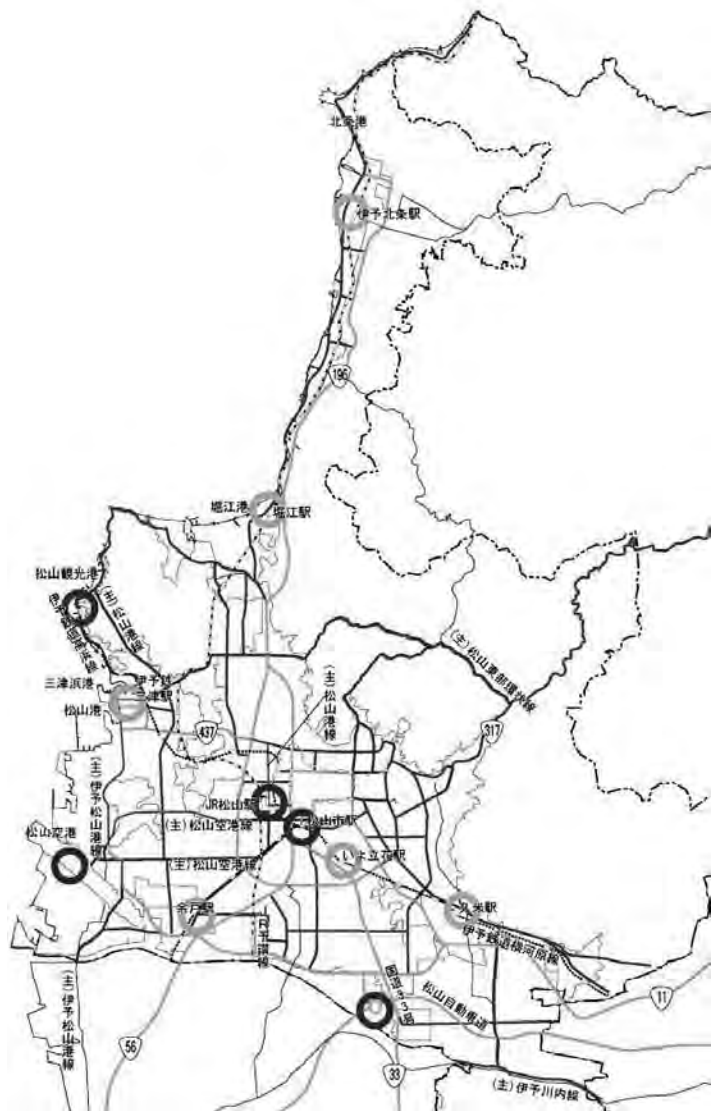


図12 交通体系の方針 資料：松山市都市計画マスタープラン



## ⑦土地利用

本市の土地利用面積は、田、畑、雑種地が減少傾向にあります。一方、宅地の面積は増加しています。

表1 田、畑、宅地及び山林面積の推移

資料：松山市統計書「地目別土地面積」 単位：ha

	総面積	田	畑	宅地	鉱池・地沼	山林	原野	雑種地
平成19年	24,995	3,257	5,725	5,042	17	9,746	118	1,090
平成20年	24,986	3,213	5,711	5,079	16	9,739	119	1,109
平成21年	24,962	3,173	5,707	5,114	16	9,757	119	1,076
平成22年	24,947	3,155	5,702	5,143	17	9,757	120	1,054
平成23年	24,893	3,133	5,696	5,163	17	9,705	120	1,059

※本表は、各年1月1日の固定資産概要調書から集計した評価総地積であり、非課税地は含んでいません。

## ⑧文化財

本市には多くの文化財、記念物などがありますが、それらは本市の歴史と文化を育んだ自然的風土、あるいは人文的風土を反映した市民の大切な財産であり、その保護を図るとともに、後世に伝えていくべきものです。

本市における平成24年3月1日現在の文化財指定件数は、国宝3件、国指定重要文化財33件、県指定71件、市指定160件、計267件です。同じく登録文化財は、有形文化財6件、記念物（名勝）1件の計7件となっています。

## ⑨観光

本市には恵まれた自然景観とともに、日本最古の温泉である道後温泉や日本三大連立式平山城である松山城があります。また、夏目漱石の小説「坊っちゃん」や司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』、正岡子規をはじめとする俳句、あるいは四季折々の祭りや郷土芸能の数々、四国霊場など歴史的文化的観光資源に恵まれ、四国を代表する観光地として発展してきました。

また、平成23年には、新たな観光戦略として、瀬戸内海が有する魅力を最大限に引き出し、物語を演出しながら、広島地域の資源と愛媛・松山の資源を組み合わせ、磨き上げ、西日本にニューツーリズムを創造することを目指し、瀬戸内松山構想を掲げました。

このように、本市では、既存の観光資源を有効に活用しながら、回遊性、物語性のある新たな観光の魅力を生み出すとともに、感動と安らぎを与える観光地域づくりを進めています。